

まもなく小麦「びわほなみ」の播種時期です 排水対策を行い適期に播種しましょう

1. 早播きは病害や凍霜害を助長します！

早播きは、黒節病や縞萎縮病の発生を助長し、収量低下につながります。特に昨年、黒節病や縞萎縮病が多く発生したほ場では、早播きは避けましょう。

また、秋播性の低い「びわほなみ」は、暖冬年では幼穂形成期や茎立ちが早まり凍霜害が発生しやすくなりますので、適期播種に努めましょう。

表1 播種適期の目安

| 地域 | 播種適期 |
|-------|--------------|
| 湖辺・平坦 | 11月5日～11月20日 |
| 中山間 | 11月5日～11月15日 |



黒節病



凍霜害

2. 播種が遅れた場合は播種量を増やす！

適期播種の播種量の目安は8～9kg/10aです。播種が遅れた場合や排水不良のほ場では、播種量を1kg/10a程度増やし、苗立数を確保しましょう。目標苗立数は150～200本/m²（条間25cmの場合、1mに40～50本程度が目安）です。

なお、必ず種子更新をした種子を使用してください。